相模原市立博物館は、郷土の自然や文化に市民が親しめるようにと、1万平方メートルもの広大な敷地に総工費約90億円を投じて平成7年に建てられた。いまでは年間の来館者が10万人を超える地元密着型の博物館となっている。

自然光をたっぷり取り込めるように建てられたというガラス張りの明るく洗練された建物にまず驚かされる。近隣の森林との景観に見事に調和し、巨大なサンルームを思わせるこの建物は、これまでにいくつものデザインコンクールや建築コンクールの優秀賞に輝いた。

しかし、この博物館の最大の魅力はなんといっても県内で最大規模のプラネタリウムだろう。「プログラムは季節ごとに入れ換え、日に4回（平日は2回）、プラネタリウムと全天周映画（有料）を交互に投影しています。週末ともなればこのプラネタリウム目当てに遠方からも多くの人たちが訪れるんですよ」と語るのは学芸員の守屋博文さん（昭和55年法律卒）だ。

このほか、自然・歴史展示室では郷土の歴史や地域の変貌を学ぶことができる。また、農耕具などによって昔の人々のくらしぶりに触れることもできる。現在は特別展として第7回収蔵品展「豊かさの研究―石器時代から見る未開と文明―」が4月6日（日）まで開催中。館内は広々とした空間でゆったりとくつろげる。また、売店は恐竜・天文グッズなどが充実しており、博物館を訪れた記念として、子どもから大人まで楽しく選ぶことができる。

県外からは訪ねるにはちょっと不便ではあるが、それでも訪れる価値は十二分にある。相模原市民だけに独占させておくにはちょっともったいない！ぜひとも天気のよい日に訪れてみてほしい。

学芸員
守屋 博文さん（昭和55年法律卒）

相模原市立博物館

相模原市高根3-1-15
電　話／042-750-8030
休館日／月曜日（休日にあたる場合は翌日）年末年始、その他
開　館／9：30～17：00
入場料／常設展：無料　特別展：その都度定められる
　　プラネタリウム・全天周映画　500円

★小田急線「相模大野」駅下車、バス02系統「宇宙科学研究所入口」下車徒歩5分、JR「淵野辺」駅下車徒歩20分

ミュージアムリンク No.8

東洋大学の教員・卒業生が関わる博物館をシリーズで紹介しています。今回は守屋博文さん（昭和55年法律卒）が学芸員を務める相模原市立博物館と、文学部の比嘉佑典教授が資料収集委員を務める横浜人形の家をご紹介します。

相模原市立博物館
横浜人形の家

魅力のつまった宝の館がこんなにいっぱい！

横浜人形の家

横浜市中区山下町18番地
電　話／045-671-9361
休館日／第3月曜日（祝日の場合火曜日）年末年始
　　その他
開　館／10：00～18：00（閉館は18：30）
観覧料／大人300円
★JR「横浜」「桜木町」駅から市営バス「山下公園入口」下車すぐ
　JR「石川町」駅（元町口）下車徒歩13分

港の見える丘公園に近接する「横浜人形の家」（兼高かおる館長）は、昭和61年のオープン以来、国内外からの来場者が延べ700万人を超える、港町ヨコハマの人気スポットとなっている。これまでに美智子皇后をはじめとする各界著名人も数多く来館した。ショッピングで人気の元町商店街が近くにあり、また人形というアイテムが郷愁を誘うのか、特に中高年以上の女性に人気を博しているようだ。

同館は138カ国・9800体余りの人形を収蔵し、常設展示を「世界の人形」「日本の人形」の2フロアに分けテーマ毎に行っているほか、年に数回企画展を開催。「世界の人形」コーナーでは各国の人形が陳列された巨大ガラスケースが音楽に合わせて回転する様（左写真）が圧巻だ。青い目の人形で代表される親善交流人形や当時の時代背景を偲ばせる文献などもあわせて展示されている。「学術的にも、内容的にも、日本一の規模でしょうね」と語るのは、同館で購入する人形の選定にあたる、資料収集委員会委員を務める比嘉祐典文学部教授だ。

このほか各種人形劇に対応できる装置を備えた、本格的な人形劇場「あかいくつ劇場」（座席数147席）があり、月に数回人形劇が上演される以外に講演会や映画会などに利用されている。また、売店ではオリジナルグッズの販売や館内で不定期に行われる手づくり人形教室の作品も展示しており、大人も子供も楽しめる内容となっている。

現在、恒例の「館蔵ひな人形展」が3月9日（日）まで開催中。江戸時代の珍しいひな人形が見どころとなっている。

人形等資料収集委員会 委員
比嘉 佑典 文学部教授